

# 文藝春秋

現代の知性24人が選ぶ 藤原正彦、保阪正康、坂東眞理子、原田マハ ほか

## 代表的日本人100人

SMAPはじまりの日 鈴木おさむ

八月特大号



# 昭和天皇 「衝撃の肉声」



『昭和天皇 拝謁記』第1巻  
吉見直人  
ジャーナリスト



吉見直人 拝謁は六百回以上、時間にして三百三十時間超。  
初代宮内庁長官が書き残した「天子様」の心の中

戦前・戦中・戦後と六二年有余にわたり天皇の地位にあった昭和天皇。旧憲法下では大日本帝国を統治する国家元首、そして日本軍の総司令官・大元帥でもあり、戦後は新憲法(日本国憲法)の第一条に定められた日本国および日本国民統合の象徴である。昭和時代の日本を語る上で最重要人物といえるのだが、これまでは史料の乏しさもあってさまざまに語られ、相反する昭和天皇像が並立していたように思われる。

そうした状況を一変させる史料が公開された。初代宮内庁長官田島道治の記録『昭和天皇拝謁記』(岩波書店、全七巻)である。核となるのは田島長官が昭和天皇に面

会(拝謁)した際の問答を詳細に記録した「拝謁記」で、この「拝謁記」という名称は田島自身の記述に基づく。長官となって約半年後の一九四九(昭和二四)年二月三日から、最後の拝謁となる一九五三(昭和二八)年二月一六日まで四年十カ月余り、回数にして六百回以上、時間にして三百三十時間を超える拝謁の内容があたかも対談のテープ起こしのようにほとんどしゃべったままの言葉で、そして田島の心の声も随所に書かれている。

昭和天皇の発言の記録でこれだけ膨大な史料が出てきたのは初めてで、その実像を知る上で決定版といえる。田島道治は一八八五(明治一八)年に愛知県で生まれ、

鶴見祐輔と共に新渡戸門下の三羽鳥とも評された。卒業後は地元の愛知銀行に入行、一九二七(昭和二)年の金

料公開も含めて協力している。ここでは田島家以外で初